

ポイント

◆◆特集◆◆

★道路占用料の改定について★

(国土交通省 道路局 路政課 道路利用調整室)

道路占用料の改定について解説する。

◆◆道路管理事務等担当職員による論稿紹介(第2回)◆◆

★特殊車両通行許可制度の遵守による戦略的維持管理について★

(国土交通省 北海道開発局 室蘭開発建設部 公物管理課 管理専門官 石井充／  
国土交通省 北海道開発局 建設部 建設行政課 開発専門職 米川高広)

国土交通省道路局総務課道路政策企画室では、道路管理事務に興味のある方等より広く論稿を募集しておりますが、皆様の実務の参考のため、このコーナーにおいて掲載することとしました。

今回は第2回の掲載として、国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部公物管理課管理専門官の石井充氏、国土交通省北海道開発局建設部建設行政課開発専門職の米川高広氏により「特殊車両通行許可制度の遵守による戦略的維持管理について」を掲載致します。

◆◆TOPICS◆◆

★長崎EV&ITSプロジェクト★

～未来型ドライブ観光の実現を目指して～

(長崎県 産業労働部 グリーンニューディール推進室)

ユネスコの世界遺産暫定リストに登録された「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」を有する五島地域(五島市及び新上五島町)において、EVとITS(高度道路交通システム)が連動した“未来型ドライブ観光システム”の構築や、EVとエネルギーシステムが連携した“エコアイランド”の実現を目指して取り組んできた「長崎EV&ITS(エビッツ)プロジェクト」を紹介します。

---

## ◇◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◇

---

### ★冬期の道路交通確保について★

#### ～異常降雪時の対応や立ち往生車両に対する取組み～

(国土交通省 北陸地方整備局 道路部 道路管理課)

北陸地方整備局管内は、全て積雪地または積雪寒冷地域であり、山間部においては全国有数の豪雪地帯も含まれている。冬期間は、積雪や路面凍結、吹雪などによる視程障害など道路状況が著しく変化することから、状況に合わせた対応をしているところである。本稿では、冬期交通障害を防ぐため、事務所毎の様々な工夫や取組み事例について紹介する。

.....

### ★秋田県における道路維持管理の取組み★

#### ～橋梁長寿命化対策・道路管理ポータルシステムの構築～

(秋田県 建設部 道路課)

道路施設の老朽化対策や、集中豪雨や豪雪による災害に対する防災・減災対策が急務となっていることから、適正、迅速、効果的な維持管理を行うため、秋田県では、橋梁長寿命化対策や道路管理に関する新たなシステム構築などを進めており、これらの取組みについて紹介します。

.....

### ★北秋田市における道路管理の取組み★

#### ～橋梁長寿命化、道路ストック総点検（舗装）～

(秋田県 北秋田市 建設部 建設課)

老朽化が急速に進行する橋梁や舗装、トンネルなどの施設を限られた財源で、適正かつ計画的に維持管理していくことが喫緊の重要課題となっています。

本稿では、北秋田市における老朽化対策への取組みの中から橋梁長寿命化、道路ストック総点検（舗装）について紹介します。

---

## ◇◆お知らせ◆◇

---

### ★平成26年度「道路ふれあい月間」推進標語を募集します★

(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

国土交通省では、毎年8月を「ふれあい月間」として、道路の正しい利用や道路愛護活動の推進に努めていますが、この一環として、平成26年度「道路ふれあい月間」推進標語を広く一般から募集します。

## ◆◆編集後記◆◆

ロシア・ソチで開催の第22回オリンピック冬季競技大会。主にテレビで、選手のオリンピック出場までの軌跡や競技ルール・見どころといった知識をにわか勉強で得、ハラハラ・ドキドキしながら観戦しました。いまでこそ、家にいながらテレビで観戦するスタイルが定着しましたが、東京オリンピックが開催された昭和39年当時、テレビはまだ普及の途上にありました。

テレビの本放送が開始されたのは、今から61年前の昭和28年2月1日。当時、テレビの価格は、一般的なサラリーマンの年収に相当するほど高額であったため、各家庭への普及が進まなかったようです。そこで、広告媒体としてのテレビの価値をスポンサーに訴えるため、テレビ局によって、デパートや駅、公園などに『街頭テレビ』が設置されました。『街頭テレビ』の前には、多くの人々が集まり、映し出される映像に熱狂したと聞きます。特に、プロレスやボクシング、大相撲の人气が高く、例えば、プロレス中継が行われた際の東京・新橋の駅前には、実に1万2,000人も人が集まったという記録も残っているほどです。

この頃のテレビ放映は白黒でありましたが、昭和35年9月に、カラー放送の時代が到来します。その契機となったのは、昭和39年に開催された東京オリンピックでした。この東京オリンピックは、日本の放送関係者が総力を挙げて、テレビ放送の実現に尽力した出来事でも知られ、開会式・閉会式をはじめ、レスリング、バレーボール、体操、柔道など8競技がカラー放送されました。競技のVTR収録、スローモーションでの再生など、新しいテレビ技術が一斉に登場したため、東京オリンピックは、「テレビオリンピック」ともいわれ、世界にその放送技術の高さを示すとともに、日本のテレビ産業が世界に大きく飛躍する機会にもなりました。

平成4年のバルセロナオリンピックでは、オリンピック初のデジタル放送の実施、平成24年のロンドンオリンピックでは3次元ライブ放送が実現しました。長期間にわたる景気の低迷等で、活気を失ってしまった日本ですが、2020年の東京オリンピックには、昭和39年の東京オリンピックのように、世界が日本の産業に注目するような技術が誕生してほしいと願いつつ、どんな未来が待っているのか、今からとても楽しみでなりません。